

科目名		インテリア実習Ⅰ			
担当教員	木戸 久美子	実務授業の有無	○		
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	インテリアにおける、プロダクト、トレンドやデザイナーについてなど幅広い知識を学ぶ。また、企業とのコラボでニーズに合わせた空間演出を課題を通してトレーニングする実習 1. 説明→プランニング→実習→講評→添削と解説を繰り返して行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. 目的を持って、表現する空間演出のプロセスを計画・実習する。 3. 条件に則した制作の進め方の基本を理解する。 4. 校外授業として企業や店舗の見学を行い、見聞も広げる。				
学習目標 (到達目標)	インテリアコーディネートに必要な知識を学習し、適切な選択と提案ができるようになることを目指します。また効果的なプレゼンテーションのためのテクニックを習得します。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①超図解で全部わかるインテリアデザイン入門・ ②はじめてのインテリア製図				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	インテリアイメージの種類・イメージを決める要素 ①イメージスクラップ等の用途とイメージ決定プロセス	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。			
2	イメージスケールについて ①イメージスケール表 ②インテリアイメージの実現方法	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。			
3	巾着材の知識 床・壁・天井・建具・造作材等インテリア構成材の種類を把握する	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。			
4	窓周りの装飾知識 ①窓周りの装飾の種類 ②適切な装飾プランの提案	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。			
5	家具の知識・フロアプランの知識 ①家具の種類と配置の知識 ②フロアプランの作成する	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。			
6	照明器具の知識 ①照明器具の種類 ②適切な配灯計画・器具提案	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。			
7	戸建のインテリアコーディネート ①クライアントの要望に合わせたインテリアコーディネート実習	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。			
8	平面図のショードローイング ①建築図面に基に、居室のコーディネートをショードローイングで表現する	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。			
9	展開図のショードローイング ①窓周りプランを展開図のショードローイングを使って表現する	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。			
10	着色技術 ①色鉛筆を使った着色技術	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。			
11	プレゼンボード作成のテクニック ①コーディネート内容の効果的提案とプレゼンボード作成	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。			
12	プレゼンテーション技術 ①クライアントへのプレゼンテーションテクニック	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。			
13	ショールーム等見学 住宅関連のショールームで実際に流通している商品を確認する	方法：住宅関連のショールームで実際に流通している商品を確認するとともに家具、装飾の機能を学ぶ。 見学前：現場で見るべきポイントと目的を明確化 見学後：レポートで、見学の効果を確認 準備学習：現場研究と、服装、マナー等の指導			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
授業態度や提出レポート、実習で作成した作品などの完成度で評価する		プレゼンテーション技法を学び、2年次インテリアコーディネーター資格試験合格を目指します。実務に活かせる知識やテクニックを学習し、即戦力となるようしっかりと技術を習得しましょう。			
授業態度40% 実習作品50% レポート等10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		インテリアコーディネーターとして22年実務に携わる。			

科目名		インテリア実習Ⅱ			
担当教員	木戸 久美子	実務授業の有無	○		
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	今まで学習してきたインテリア計画の考え方、デザインテクニックなどの集大成としての個人作品の制作 1. テーマにもとづいたイメージの考え方と作成の手順を説明する。 2. 条件と規制に則した設計の進め方の再認識させる。 3. 説明→課題演習→チェック→フィードバックを繰り返すことで作品精度を上げる。 4. 最終的にオリジナルプランを作成し、プレゼンを行う。				
学習目標 (到達目標)	卒業制作となるインテリア模型課題の制作、オリジナル照明制作を通じ、テーマに沿ったインテリアデザインについて学ぶ。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①プリント等				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	卒業制作について ①卒業制作の進め方について (卒業生の作品を見ながらイメージをまとめる) ②卒業制作のスケジュールを立てる	方法：各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。プレゼン発表までは個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は常時行う。 目標：作品の工程管理、精度ができている 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習			
2	プレゼンボード制作 ①インテリア要素の選定 ②3Dパース制作 ③プレゼンボード制作(PBD)を使用	方法：各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は常時行う。 目標：作品の工程管理、精度ができている 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習			
3	インテリア模型制作 ①建築模型の基本の作り方を学ぶ ②要素の素材感を、模型で表現する手法を学ぶ	方法：各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は常時行う。 目標：作品の工程管理、精度ができている 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習			
4	課題発表 ①建築模型の基本の作り方 ②要素の素材感を、模型で表現する手法	方法：課題の説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は常時行う。 目標：作品の工程管理、精度ができている 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習			
5	インテリア照明制作 ①オリジナルデザイン照明器具作成	方法：課題の説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は常時行う。 目標：作品の工程管理、精度ができている 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習			
	完成スケッチの作成	方法：課題の説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は常時行う。 目標：作品の工程管理、精度ができている 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習			
	材料加工などの制作開始	方法：課題の説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は常時行う。 目標：作品の工程管理、精度ができている 準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
卒制作品の内容、プレゼンター、プレゼンテーションの表現力など総合的に判断して評価します。 課題評価60%、期限内提出30%、平常点10%		インテリア模型ではデザインセンスや表現力を重視し、2年間の集大成として、しっかりと取り組ませる。 テーマや、コンセプトについては必ず、担当教員と話し合いで確定させ、情報密度を上げて精度を高める。 個人作業になるため、進捗管理と個人指導等、スケジュール管理に留意する。 課題の評価はプレゼンをした人たちの評価も加味する。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		インテリアコーディネーターとして22年実務に携わる			